

記事再掲のお知らせ

編集長 大迫 秀世

昨年発行した『鳶のある窓四二号』の「日本列島だより」の中で宮崎二甲会の原稿の取り扱いに編集委員側の不備がありました。掲載スペースを超過した文章を削減する際に説明や確認がもれていたため出稿者にご迷惑をお掛けする次第となりました。改めてお詫びいたします。

宮崎二甲会のご理解を得て元の原稿全文を甲南高校同窓会ホームページに再掲させていただきます。

宮崎二甲会

宮崎では、東九州高速道の大分までが平成二十七年三月に開通し、行き来が容易になっております。同時に、私は水産関連の仕事を公立学校から民間企業へ移し、海沿いの高速道を走っていると、鹿児島から九州各地を身近に感じて新しい輪が作れるように思えます。七月には、仕事先の大分から大隅縦貫道まで活用して鹿屋での二甲会に参加させて頂きました。



そして、本年度の宮崎二甲会は、八月二十二日(土)に都城市のホテル中山壮にて開催いたしました。鹿児島に近い都城には、甲南出身者が多数在住されているため、五年に一度の周期で総会を設けております。鹿児島から海江田校長先生、石田同窓会長、鹿屋からは大隅二甲会の田中会長がお出で下さいました。都城在住で理事の岩元光男さん(甲南十三期)の後ろ盾のもと、例年より多い三十二名の出会となり、恒吉幸一さん(十六期)、稲元英生さん(十八期)、江夏みどりさん(十九期)、立園俊洋さん(三十二期)が新たにご参加下さいました。総会においては、二年に一度の役員改選についても挙げ、福島四郎さん(六期)、有馬晋作さん(二十五期)、岩元甲治さん(四十六期)が理事に加わって頂いております。進行にともなって「剛・明・直」の甲南魂を思い起こしながら、各方の近況報告が「気高く・優しく・健やかに」行われ、最後の校歌斉唱まで宴酬に盛り上がる事ができました。

平成二十八年になりまして、二月には宮崎二甲会が五十年の節目を迎えることとなります。その歴史について、脇岡理孝副会長(十三期)は度々お話し下さいました。先輩方の思いを旨に甲南魂を大切にしながら、宮崎をはじめとした各地区の甲南出身者が持ち前の団結力で今後も活躍していければと考えております。東九州の甲南出身の皆様、ぜひとも二甲会へのご参加と新しい輪作りへのご協力をよろしく願っています。

(甲南四十九期 大園 隆仁)